

◆科目名 Course Title			
芸術と文学（《新構想》日本現代文芸の研究）			
◆授業担当教員 Instructor			
中村 三春			
◆開講学期 Semester	前期	◆対象学年 Year	1年～
◆履修可能人数 Capacity	遠隔	◆単位数 Number of Credits	2
	オンライン 各大学15人	◆授業形態 Type of Class	講義
	オンデマンド		
	対面		

◆キーワード Key Words	
日本文学 近代小説 現代小説 現代詩	
◆授業の目的 Course Objectives	
◆授業概要 Course Description	
<p>多様な変容を遂げてきた日本の現代文芸を、テキストの読解、海外の文芸との関係、さらに美術や映画との交流などの多様な観点から読み直します。</p> <p>日本現代文芸への入門講義であるとともに、大学における学術研究としての文芸研究の理論と方法をも講述することにより、専門的な研究の基礎としての性質を備えた講義となります。</p>	
◆到達目標 Course Goals	
日本近代・現代の小説・詩を自分で読み解く能力を身につけ、その結果としての分析と批評をまとめた感想レポート、および論文レポートを執筆し、文芸と言語についての理解を明確かつ具体的に表現できる。	
◆授業計画 Course Schedule	
<p>（〈 〉内は主に取り上げる作品）</p> <p>第1回 ガイダンス 現代文芸研究の方法</p> <p>1 夏目漱石『こころ』の運命〈『こころ』〉</p> <p>第2回 『こころ』の研究史と現代的な『こころ』論</p> <p>第3回 『こころ』と物語のメカニズム</p> <p>『こころ』ほど有名で、しかも千差万別の解釈が行われてきた作品はない。「小説を読むとはどのような行為か」に留意して、この「永遠のベストセラー」を解説してみよう。</p> <p>2 宮澤賢治のハイパーテキスト〈「風〔の〕又三郎」〉</p> <p>第4回 賢治的テキストの発見</p> <p>第5回 「風〔の〕又三郎」の謎</p> <p>第6回 稿本「風〔の〕又三郎」とは何か</p> <p>宮澤賢治の多くの作品は草稿のまま残され、大半は未完成であった。さらにそのテキストは何度も書き直され、異なるヴァージョンへの参照を伴う一種のハイパーテキストとなっている。</p> <p>3 沈黙の言葉 ―谷川俊太郎〈『六十二のソネット』『定義』〉</p> <p>第7回 沈黙の詩</p> <p>第8回 テキストと百科事典</p> <p>70年以上にわたって活動を続けてきた現代を代表する詩人・谷川俊太郎。しかしその持続する営為の根底にあるのは、詩人が武器とする言葉によって世界をとらえることの不可能性の認識であった。</p>	

4 姦通小説の終焉 〈夏目漱石『それから』金井美恵子『文章教室』〉

第9回 姦通小説の歴史とジェンダー

第10回 『文章教室』と現代の姦通小説

西洋流の近代小説において重要な位置を占めた姦通小説 (adultery novel) は、近代社会における家父長制と密接な関わりをもって発展し、家父長制の力が衰えると変質し、やがて衰退していった。

5 太宰治のメタフィクション 〈「道化の華」「ヴィヨンの妻」「おさん」〉

第11回 「道化の華」のメタフィクション構造

第12回 太宰治のメタフィクションとデカダンス

第13回 デカダンスと女性

破滅型・下降型という見方は古くさい紋切り型に過ぎない。太宰の作品は、小説が小説ジャンルそのものに対する批評となるような、メタフィクション (小説についての小説) にほかならない。

6 村上春樹と〈愛されない〉ということ 〈「品川猿」『ノルウェイの森』〉

第14回 「品川猿」と〈愛着障害〉

第15回 『ノルウェイの森』とヴァルネラビリティ (傷つきやすさ) の悪循環

村上春樹の小説には、人から愛された経験がなく、そのために人を愛することのできない人物が多く登場する。そのような「愛着障害」の問題を、村上作品の系列の中から探ってみよう。

◆成績評価Grading System

【基準】 平常点：毎回の感想レポートの提出の有無によって評価する。

期末評価：平常点に加え、期末レポートの内容的水準によって評価する。

【方法】 感想レポート 30%

期末レポート 70%

いずれもELMS (教育情報システム) を利用して提出する。

◆テキストTextbooks

講義資料は配付する。また授業で取り上げる作品を、文庫本などによって各自あらかじめ読んでおくこと。

◆参考書Reading List

フィクションの機構, 中村三春, ひつじ書房, 1994

フィクションの機構2, 中村三春, ひつじ書房, 2015

係争中の主体 漱石・太宰・賢治, 中村三春, 翰林書房, 2006

◆準備学習Homework

【予習】 全集・文庫本などにより、可能な限り、授業で取り上げる作品を読んでおくこと (毎週2時間程度)。

【復習】 作品を授業内容に照らして読み直し、理解を完全なものとするとともに、意見・質問を感想レポートとして執筆し提出すること (毎週1時間程度)。

◆オフィスアワーOffice Hour

◆連絡先E-mail

◆質問・相談への対応方法Contact Information

◆履修上の注意Notes

◆備考Other Information

オンラインで実施。詳細はELMSとMoodleに掲載する。